

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):



BLACK BORDERS

- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Problem Image Mailbox.**

公開実用 昭和62- 76768

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62- 76768

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)5月16日

B 62 D 1/16

8009-3D

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ステアリングコラム取付構造

⑯ 実 願 昭60-166718

⑰ 出 願 昭60(1985)10月31日

⑱ 考 案 者 滝 川 善 治 岡崎市橋目町字中新切1番地 三菱自動車工業株式会社乗
用車技術センター内

⑲ 出 願 人 三菱自動車工業株式会 東京都港区芝5丁目33番8号
社

⑳ 代 理 人 弁理士 岡本 重文 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

ステアリングコラム取付構造

2. 実用新案登録請求の範囲

車体前部にクロスメンバーを水平横方向に配置し、前記クロスメンバーにステアリングコラムを交差して取付けたステアリングコラム取付構造において、水平断面が台形をなすコラムブラケットを前記クロスメンバーに交差して固着し、筒状部と該筒状部に交差するフランジとよりなるコラム取付ブラケットを前記コラムブラケットの上面に固定し、前記筒状部内にステアリングコラムを貫通し固定するようにしたことを特徴とするステアリングコラム取付構造。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は自動車のステアリングコラムを車体前部に取付ける構造に関する。

従来技術

車体前部にクロスメンバーを水平横方向に配置

(1)

839

し、前記クロスメンバーに水平断面が角形をなすコラムブラケットを固着し、第3図に示すようなコラム取付ブラケットを介し前記コラムブラケットにステアリングコラムを固定していた。

考案が解決しようとする問題点

従来技術によると、衝突等で乗員が前方に移動した場合、乗員の膝がコラムブラケットのステアリングコラム取付面に衝突し、膝を損傷する恐れがあつた。

問題点を解決するための手段

車体前部にクロスメンバーを水平横方向に配置し、前記クロスメンバーにステアリングコラムを交差して取付けたステアリングコラム取付構造において、水平断面が台形をなすコラムブラケットを前記クロスメンバーに交差して固着し、筒状部と該筒状部に交差するフランジとよりなる取付ブラケットを前記コラムブラケットの上面に固定し、前記筒状部内にステアリングコラムを貫通し固定する。

作 用

コラムブラケットの水平断面を台形とすることにより、乗員の膝の前方空間を広くできる。

衝突等で乗員が前方に移動し、乗員の膝がコラムブラケットに接触した場合、コラムブラケットの側面が乗員の膝を両側に誘導する。

実施例

第1図、第2図において、1は車体前部に水平横方向に配置されたクロスメンバー、2は水平断面が台形をなしクロスメンバー1に交差して固着されたコラムブラケット、3は筒状部4とフランジ5とよりなる上部コラム取付ブラケット、6はU形をした下部コラム取付ブラケット、7は上部にステアリングホイール（図示せず）を固定したステアリングシャフト8を回転可能に支持するステアリングコラム、9はステアリングシャフト8の下端に設けられたユニバーサルジョイントで、フロアパネル下側のステアリング機構（図示せず）に接続する。10は上部コラム取付ブラケット3をコラムブラケット2の上面に固定する取付ボルト、

11は上部コラム取付ブラケット3とステアリングコラム7とを固定するボルトである。

上部コラム取付ブラケット3は、筒状部4の中をステアリングコラム7が貫通し、筒状部4の切欠き12に挿入されたボルト11によりステアリングコラム7を固定する構造である。

従つて上部コラム取付ブラケット3は、閉断面形状をなし、第3図に示すコラム取付ブラケットに比して強度並びに剛性が高く、板厚を薄くすることができる。

考案の効果

- イ. 乗員の膝の前方空間が広くなり、衝突等で乗員の膝が前方に移動した時は、コラムブラケットの斜面が乗員の膝を左右に誘導する。

従つて乗員の膝の損傷を軽減できる。

- ロ. コラム取付ブラケットの強度及び剛性が従来品より増大するので板厚を薄くし軽量化することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案ステアリングコラム取付構造の

(4)

実施例の斜視図、第 2 図は第 1 図の上部コラム取付ブラケットの斜視図、第 3 図は従来のコラム取付ブラケットの斜視図である。

1 … クロスメンバー 2 … コラムブラケット

3 … 上部コラム取付ブラケット

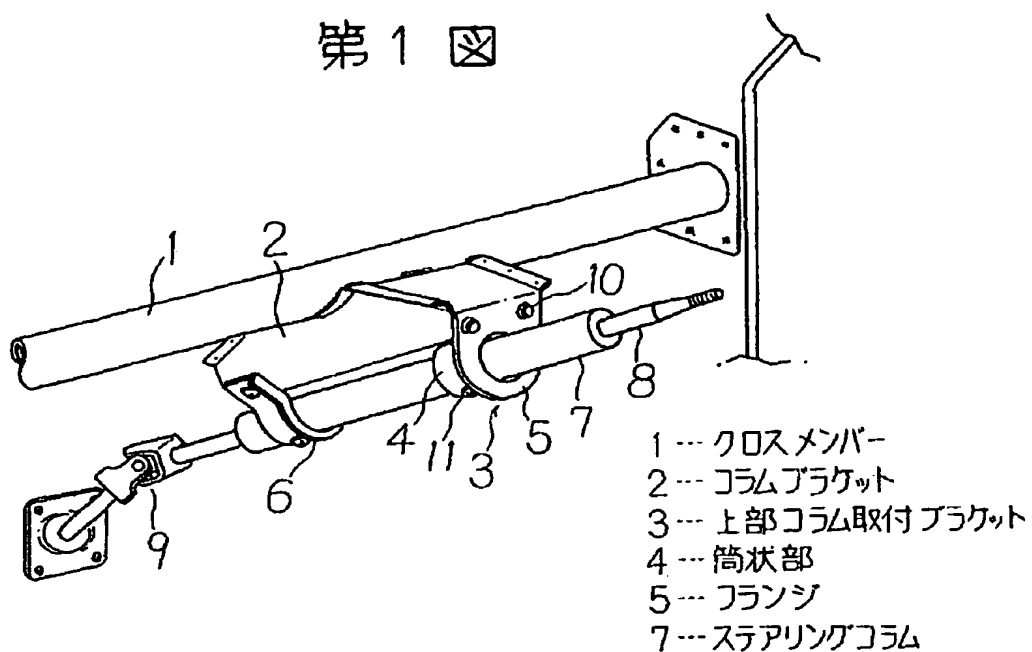
4 … 筒状部 5 … フランジ

7 … ステアリングコラム

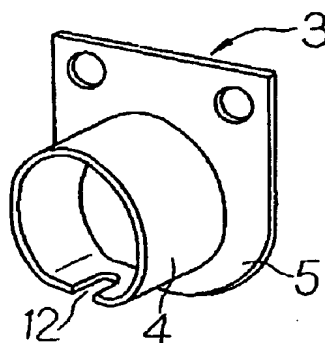
代理人 弁理士 岡 本 重 文

外 2 名

第1図



第2図



第3図

